

第40週の発生動向(2006/10/2~2006/10/8)

1. 水痘については、東地方保健所管内で新たに**警報**が出されました。
2. 流行性耳下腺炎については、東地方保健所管内で新たに**警報**が、上十三、むつ保健所管内では新たに**注意報**が出されました。

第40週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	東地方		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森市		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ																	0
(60) 咽頭結膜熱					3	0.33			1	0.17					4	0.10	3
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			10	1.11	6	0.67			7	1.17	2	0.50	5	0.63	30	0.71	10
(62) 感染性胃腸炎	4	4.00	11	1.22	1	0.11	3	0.60	5	0.83	11	2.75	7	0.88	42	1.00	-7
(63) 水痘	14	14.00	17	1.89	6	0.67	2	0.40	7	1.17			9	1.13	55	1.31	19
(64) 手足口病			1	0.11	7	0.78	3	0.60			3	0.75	13	1.63	27	0.64	11
(65) 伝染性紅斑							1	0.20	7	1.17	6	1.50	1	0.13	15	0.36	5
(66) 突発性発しん	1	1.00	3	0.33	4	0.44	1	0.20	4	0.67	4	1.00	4	0.50	21	0.50	-10
(67) 百日咳			1	0.11											1	0.02	1
(68) 風しん																	0
(69) ヘルパンギーナ					1	0.11	1	0.20					3	0.38	5	0.12	-3
(70) 麻疹(成人を除く)																	0
(71) 流行性耳下腺炎	10	10.00	10	1.11	9	1.00	1	0.20	23	3.83	17	4.25	10	1.25	80	1.90	31
(73) 急性出血性結膜炎																	0
(74) 流行性角結膜炎					2	1.00	4	4.00					3	1.50	9	0.82	1
(59) RSウイルス感染症							1	0.20					1	0.13	2	0.05	2
(82) マイコプラズマ肺炎					5	5.00					2	2.00			7	1.17	-1

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

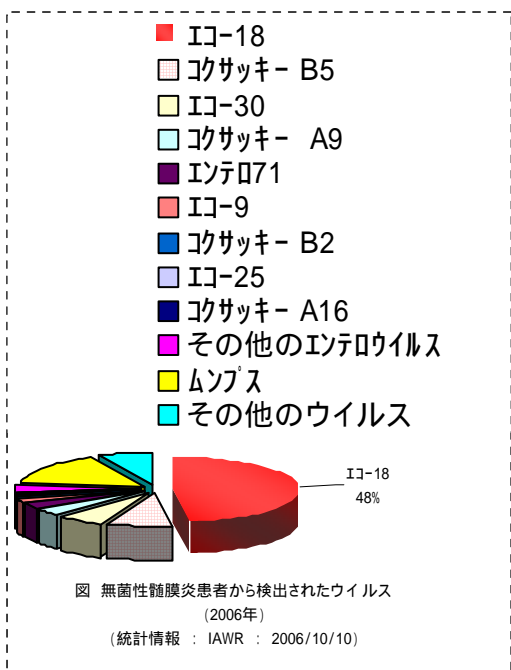
■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患) : むつ保健所: 1人 (18年計: 52人)

感染症の窓

無菌性髄膜炎



国立感染症研究所は、10月10日、無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルスの集計結果を報告しました (IAWR)。

本疾患は、図に示したように、種々のウイルスを原因とする髄膜炎の感染症で、例年6月から9月をピークに流行します。

2006年第40週までの集計は、全国累積値が634人(2.65人/定点)となっています。青森県において、昨年は2人の報告があり、本年は、現在まで基幹定点からの報告がありませんが(無菌性髄膜炎は基幹定点報告疾患です)、弘前、黒石地区の病原体定点において9月の無菌性髄膜炎疑いの患者材料から、CoxB5型が検出されています。また、病原体定点からの情報では、類似症状を呈した受診者が、まだ、見られることから、今後の動向に注意が必要です。

主症状は、発熱、頭痛、嘔吐ですが、**新生児や乳児では、不機嫌、全身倦怠感など症状が明らかでない場合もあります。**また、原因となったウイルスによっては、発疹が見られることもあります。

感染予防 うがい、十分な手洗いなど、普段からの感染症予防対策が重要です。